



ナマケてないよ ナマケモノ

フォローしてね!



各種サービスやアクセスなどの基本情報はウェブサイトからどうぞ。



動物園の取り組みをYouTube動画をYou Tube動画でお届け。



動物たちの日々の様子はInstagramでチェック。



園内での取り組みや飼育の裏側を、ブログでお伝えしています。



イベント情報、最新情報はFBでご確認を。



OMUTACITY
ZOO

このワークブックは、全国科学博物館振興財団による科学系博物館の活性化への助成事業(2022年度)に採択され、作成されました。



Omuta City Zoo
大牟田市動物園

さあ! 出かけるぞ!

観察の心得

その1

静かに観察しよう

その2

ゆっくり動こう

その3

カメラのフラッシュは
オフにしよう

その4

動物と距離をおこう

その5

動物の前で
食べ物をしまっておこう



大牟田市動物園にいる動物たちです。見つけたらチェックしてね。

みなさん、こんにちは。

大牟田市動物園のワークブックを手にとってくださって、

ありがとうございます!

ナマケモノはずっと寝ていると思われがちですが、

動かない=寝ている、というわけではありません。

実は消化を促進するためにじっとしている時間も長いのです。

その他にもまだまだナマケモノについては、知られていないことがたくさん。

さあ、ページをめくって、

ナマケモノについて知る旅に一緒に出かけましょう。

ナマケモノの仲間たち 4

どんなところに棲んでいるの? 6
~中南米に棲んでいる動物たち~

大牟田市動物園の クリとダイク 8

クリとダイクを探してみよう! 10

ナマケモノのおうちへようこそ 12

まだまだあるよ、ナマケモノ 14

コスタリカで今起きていること 16

大牟田市動物園にできること 17
みなさんにできること

ナマケモノを守りたい! 18
大牟田市動物園、SloCoと協力をする

もくじ ナマケてないよ ナマケモノ



■ 監修・編集 大牟田市動物園
■ デザイン・イラスト 池田泰子
■ 協力 SloCo
■ 発行 大牟田市動物園
〒836-0871 福岡県大牟田市昭和町163
2022年10月21日発行

さあ! 出かけるぞ!

あると便利な 持ち物や服装紹介

カメラやスマホ
見つけたものは持ち帰らずに写真に残そう。



虫よけ



水筒



特に日差しの強い日には忘れずに。

筆記用具



見つけたものや、観察の詳しい記録をつけよう。日づけや場所も忘れずに。

雨具



折りたたみ傘やかっぱなど。

リュック

両手が自由になるリュックがおすすめ。



帽子

日差しや頭の怪我を防ぐため、「つば」のある帽子をかぶろう。

長袖長ズボンの恰好

しげみだけがなどしないように、首・手首・足首はおおわれている方が安全。



タオル



双眼鏡

鳥やはなれた場所の生き物を見つけるのに便利。

ナマケモノの仲間たち

ナマケモノは、前足の爪が 3 本のミユビナマケモノ科と前足の爪が 2 本のフトユビナマケモノ科に分けられます。ミユビナマケモノ科には 4 種、フトユビナマケモノ科には 2 種の合計 6 種のナマケモノがいます。それぞれの特徴を見ていきましょう。



Bradypus torquatus

タテガミナマケモノ

分類 有毛目 ミユビナマケモノ科 **VU** (危急)

ブラジル南東部（大西洋沿岸）の熱帯雨林に生息しており、セクロピアという木の葉を好んで食べます。首から肩にかけて生えているたてがみが特徴で、名前の由来にもなっています。

ナマケモノは全部で 6 種！それぞれのナマケモノの特徴が分かったかな？



飼育員
もとひろ せいむ
本廣 星和



Choloepus hoffmanni

ホフマンナマケモノ

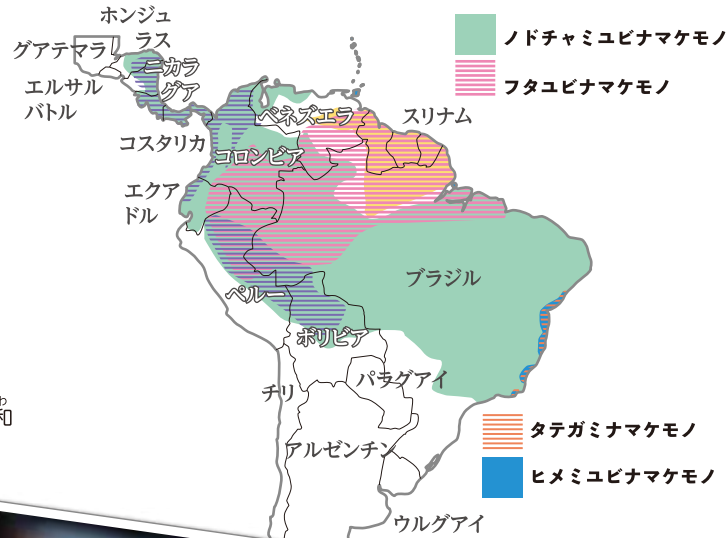
分類 有毛目 フトユビナマケモノ科 **LC** (低懸念)

コスタリカからブラジルにかけての中南米に生息しています。顔は薄い茶色、体は濃い茶色の毛色が特徴です。基本的に夜行性であり、主に果実や木の葉を食べます。

SOUTH AMERICA

ホフマンナマケモノ

ノドジロミユビナマケモノ



© SUZI ESZTERHAS

Bradypus tridactylus

ノドジロミユビナマケモノ

分類 有毛目 ミユビナマケモノ科 **LC** (低懸念)

ベネズエラ東部やブラジルなどの南米北部の熱帯雨林に生息しており、セクロピアなどの木の葉を食べます。喉にある淡黄色の斑点模様が特徴的です。

Bradypus pygmaeus

ヒメミユビナマケモノ

分類 有毛目 ミユビナマケモノ科 **CR** (深刻な危機)

カリブ海にあるエスコドデベラグアス島にのみ生息するナマケモノで、主にマングローブの葉を食べます。他のナマケモノに比べ、とても体が小さいことが特徴です。



Bradypus variegatus

ノドチャミユビナマケモノ

分類 有毛目 フトユビナマケモノ科 **LC** (低懸念)

ホフマンナマケモノと同様に、中南米に生息しており、ミユビナマケモノの中で最も広範囲に分布しています。体の色は全体的に薄い茶色で、目の横に黒い縞模様があります。



分類 有毛目 フトユビナマケモノ科 **LC** (低懸念)

Choloepus didactylus
フトユビナマケモノ

ベネズエラやブラジル北部などの南米北部を中心に、生息しています。クリーム色長い毛と大きな目が特徴です。ウルシ科の植物やアオイ科の植物の葉や実を食べます。

IUCN レッドリストとは

NE	DD	LC	NT	VU	EN	CR	EW	EX
未評価	データ不足	低懸念	準絶滅危惧	危急	絶滅危機	深刻な危機	野生絶滅	絶滅

世界自然保護連合 (IUCN) が作成している絶滅の恐れがある野生生物のリストです。14 万種以上の動物や植物が登録されており、保全活動を進めていく上でとても重要な情報源です。

もっと詳しく知りたい方はこちらから

どなたところに棲んでいるの？

～中南米に棲んでいる動物たち～

ナマケモノは中南米の熱帯雨林という高い木がたくさん生えた森に暮らしており、1日のほとんどを木の上で過ごしています。

熱帯雨林は1年を通して気温が高く、雨もよく降る高温多湿な環境です。中南米にはナマケモノ以外にも様々な動物たちが暮らしています。



フサオマキザル

Cebus apella

分類 霊長目 オマキザル科 **RED** LC (低懸念)

サルの仲間の中でも特に知能が高く、石などの道具使って硬い殻の木の实を割ります。8～10頭ほどの群れを作り暮らしています。



コモンスザル

Saimiri sciureus

分類 霊長目 オマキザル科 **RED** LC (低懸念)

体がリスのように小さく、四肢の黄色の毛が特徴です。15頭前後の群れを作り暮らしています。



Hydrochoerus hydrochaeris

カピバラ

分類 げっ歯目 テンジクネズミ科 **RED** LC (低懸念)

ネズミの仲間では最大の動物です。手足には水かきがあり、泳ぎが得意です。10～20頭前後の群れを作り暮らしています。



Crocodylus acutus

アメリカワニ

分類 クロコダイル科 **RED** VU (危急)

南米北部に生息しており、マングローブや汽水湖などの塩分を含む水域を好んで暮らしています。ワニの中でも大きく、6mを超えることもあります。



Panthera onca

ジャガー

分類 食肉目 ネコ科 **RED** NT (準絶滅危惧)

南米では最大のネコ科動物で、基本的に単独で行動します。

狩りをする時は静かに近づき、頑丈な顎と鋭い爪で獲物を仕留めます。



自然の中で食べるもの



ナマケモノは主に6～12種類の木の実や葉を食べており、私たちに身近なものではカカオや、イチジクなどの実や葉っぱを好んで食べています。また熱帯雨林によく見られるセクロピアという掌状に開いた葉っぱも食べています。

動物の棲み分けの話

様々な動物が暮らす熱帯雨林ですが、それぞれの動物が使う空間にも特徴があります。ナマケモノは主に樹木の上層部分で過ごすことが多く、リスザルやフサオマキザルは樹木の中層部分を移動しています。ジャガーは基本的に地上で暮らしますが、木に登ったり川を泳いだりすることもあります。カピバラとワニは地上と水中を行き来していますが、カピバラは地上、ワニは水中で多くの時間を過ごします。それぞれの動物が、バランスよく棲み分けています。



大牟田市動物園の クリとダイク

2015年
10月15日生まれ
クリ♀
高知県立のいち動物公園より来園
(2017年)

1997年生まれ
ダイク♂
神戸市立王子動物園より来園
(2020年)

クリとダイクを見分けられたかな？
実際にリスザル王国に行って、クリとダイクを見つけてみよう！



飼育員
いわた ひろみ
岩下 宏美

屋外から、屋内に入る際は、独自のルートを使用。屋外では、斜面の草の上に横になったり、フェンスにつかまったりしていることが多い。

好奇心旺盛で、新しいものを見ても物怖じしない。屋内では、ハンモックの上がお気に入り。屋外では、木の上で横になっていることが多い。

サツマイモとニンジンが大好き

体が大きい
深いつめのカーブが

手足はペタペタ

舌はギョギョ

口が大きい

深いつめのカーブが

手足はペタペタ

舌が大きい！

動物園での食べ物

当園では、小松菜、白菜、固形飼料（葉っぱを食べる動物用）が中心です。
ニンジン、サツマイモ、ブロッコリー、キュウリは、日替わりメニューで、曜日によって変わります。
クリのごはんには、インゲン、ピーマンも入っています。
ダイクはインゲンやピーマンを食べないので、ダイクのごはんには入っていません。個体に合わせたごはんの内容を食べてもらっています。



動画で内容をチェック！



消化について

ナマケモノは、食べものを消化するのに1ヶ月かかるといわれています。野生のナマケモノは、1週間に1回、木の上から降りてきて、地面でうんちをします。1回のうんちで体重が30%減ります。
クリとダイクは、だいたい3日に1回うんちをします。ナマケモノは、うんちをする時に『うんちダンス』を踊ります♪お尻をくねくねさせて、お尻で穴を掘る行動です。クリとダイクもうんちをするときは、『うんちダンス』をしますが、飼育員も滅多にみることはできません。もし見かけたなら、是非観察してみてくださいね。

よく観察して、イラストを完成させよう！

※この姿勢ではない場合もあります。

クリとダイクを

探してみよう！

観察日： 年 月 日 ()

天気： 晴れ・曇り・雨

クリ

目がきりっとしている
毛が長い
毛の色が暗い(全体的にグレーっぽい色)
爪が緩やかなカーブ

正面の顔や爪などの気になるところの
スケッチをしてみよう！

クリとダイクの
前足の爪の数 本

ダイク

目がまるい
毛の色が明るい(クリーム色)
爪が半円のようなしっかりとしたカーブ

正面の顔や爪などの気になるところの
スケッチをしてみよう！

クリとダイクの
後足の爪の数 本

当てはまるものにチェックしよう！

どこにいる？ 屋内 分からなかった
 屋外

具体的な内容を記入しよう(例：木の上)

動いている？何をしています？

動いていた 食べる・飲む 動いて 地面に転がっている
 移動 いなかった ぶら下がっている
 体をかいている 枝の上で休んでいる

観察 MEMO

当てはまるものにチェックしよう！

どこにいる？ 屋内 分からなかった
 屋外

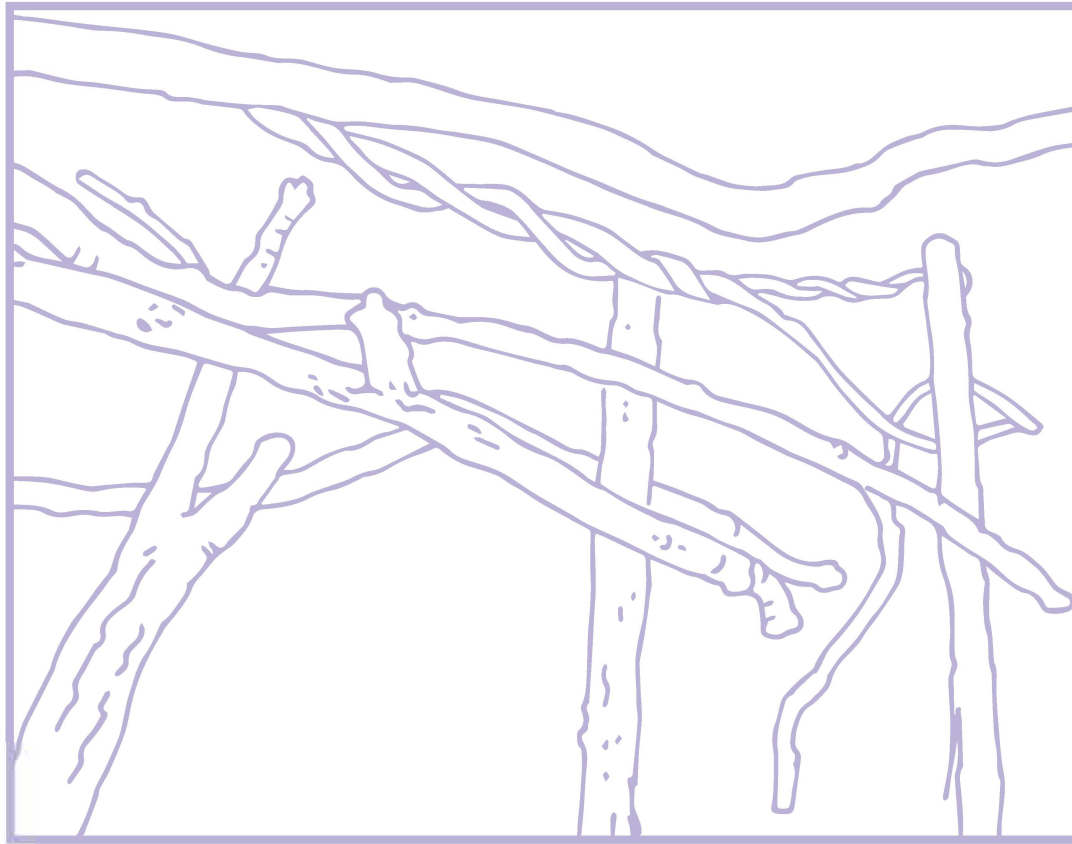
具体的な内容を記入しよう(例：木の上)

動いている？何をしています？

動いていた 食べる・飲む 動いて 地面に転がっている
 移動 いなかった ぶら下がっている
 体をかいている 枝の上で休んでいる

ナマケモノのおうちへようこそ

クリとダイクのおうちには、いろいろな物が設置されています。どんなものがあるのか探して、下の絵に描き込んでみましょう！そして、なぜ飼育員がそれを設置しているのかも考えてみてくださいね。



見えないけれど、快適に過ごせる工夫 屋内

エアコン（冷暖房）、加湿器、コルツヒーター、はお客様から見えない位置にあります。ナマケモノの屋内は、生息環境の温湿度に近づけるために、気温 25 度以上、湿度 60% 以上になるように調整しています。



ナマケモノにプレゼントを頂きました



ナマケモノのダイクに自由に外出してもらいたい！

動画で内容を
チェック！



屋内 洗濯ばさみ（ピンチハンガー）

食べ物を吊るすことで前足を使って食べてもらうことができる。食べ物が揺れて少し食べにくくなるため、採食時間が長くなる。



屋内 カラーマット、ゆらゆら丸太、ポケット、穴あきマット

穴に食べ物を刺す。いろいろな入れ物を用意することで、探す時間が増える。

体重計

月に一回体重測定を行っている。枝にぶら下がってもらうことで体重測定ができる。

屋内

人工芝（冬季限定）

寒い冬は、コンクリートの床が冷え、室内の温度が下がってしまう。そのため、床からの冷えを防ぐために敷いている。

屋内

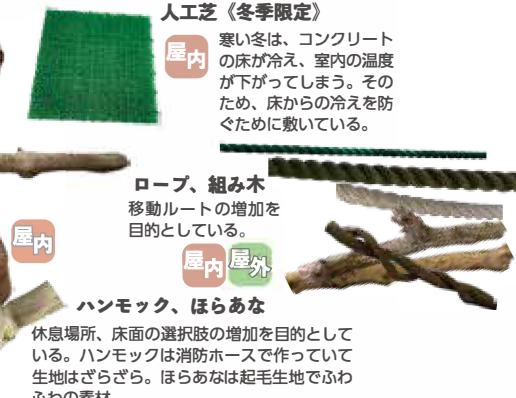
ロープ、組み木

移動ルートの増加を目的としている。

屋内 屋外

ハンモック、ほらあな

休息場所、床面の選択肢の増加を目的としている。ハンモックは消防ホースで作って生地はざらざら。ほらあなは起毛生地がふわふわの素材。



植物（草、花、木、どんぐり）

自然に生えている植物は、食べたり、匂いをかいだりすることができ、刺激になる。季節によって植生が変化し、ダイクとクリの食べる植物もその都度変わる。春は桜の葉、夏と秋には、ダイクはカクレミノの葉、クリはトウネズミモチの葉を好む。



リスザル

ナマケモノと同様、南米に棲む生き物。リスザルの鳴き声や匂いが刺激になる。

クリとダイクが心身共に健康に過ごせるような環境づくりを心がけ、野生本来の行動を引き出すためのものや、退屈な時間を減らすことを目的とした取り組みを行なっています！

飼育員
ますざわ あや
増澤 愛優



まだまだあるよ、ナマケモノ

このページでは、あまり知られていないナマケモノの生態や体の特徴について紹介します。このページを読んで、当園のダイクとクリを観察したり、本で調べたり、ネットで動画を見たりしてみましょう！
ナマケモノについてもっと知って、ナマケモノ博士になろう！

調

野生のナマケモノは、毛の中で生き物を飼っている？



ナマケモノの毛の中には、蛾と藻が生息しています。ナマケモノがうんちをするために地面に降りると、蛾はナマケモノのうんちに卵を産みつけます。ナマケモノの毛の中で死んだ蛾は、藻のエネルギーになります。毛の中にたくさんの蛾がいれば、多くの藻が生えてナマケモノの体が緑色になるので、森の中でのカモフラージュに役立ちます。

ナマケモノの胃はどうなっている？

調



私たち人間の胃には1つの部屋しかありませんが、ナマケモノは、4つの部屋がある大きな胃を持っています。ナマケモノは、主に植物の葉を食べて暮らしています。(詳しくは p.7) 4つの部屋がある大きな胃を持つことで、時間をかけて植物の葉をしっかり消化することができます。

観

観察してみよう

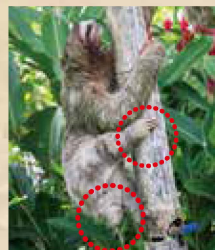
調

調べてみよう

ナマケモノは、しっぽがある？

観

調



ミツユビナマケモノ



フトユビナマケモノ

しっぽがあるナマケモノもいます。フトユビナマケモノにはありませんが、ミツユビナマケモノには小さなしっぽがあります。前足の爪の数だけでなくしっぽの有無でも、ミツユビナマケモノとフトユビナマケモノを見分けることができます。

ナマケモノに歯はある？

観

調

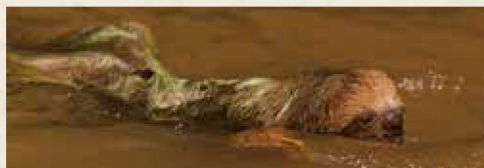
ナマケモノは歯がないと思われがちですが、実は、ナマケモノには鋭くとがった歯があります。赤ちゃんでも植物の葉を食べることができるように、生まれた時から歯が生えています。



ナマケモノは、泳げる？

調

泳ぎが得意なナマケモノもいます。それがミツユビナマケモノです。ミツユビナマケモノが生息している地域は雨季と乾季があります。雨季になると多くの土地が冠水してしまい、泳ぐ必要があるためです。



© David Badilla Villareal

ナマケモノは、目が悪い？

調



ナマケモノは、色の判別ができない1色覚型のため、目が良いとは言えません。その分嗅覚が発達しています。嗅覚を使って、食べ物を探して、得ています。

ハズバンドリートレーニングに注目



動物の心身の健康管理など飼育上必要な行動を動物たちに協力してもらいながら行うトレーニングのことを、ハズバンドリートレーニングと言います。例えば、ナマケモノでレントゲンの撮影はこんな手順で行います。まず、クリにレントゲンの撮影場所まで移動してきてもらいます。そこで、ロープに後ろ足だけでぶら下がり、体を伸ばしてもらいます。この体勢の時に、正面から撮影をします。レントゲンを撮ることで、病気の早期発見につなげることができます。

こんなことに役に立ちます「体重測定」



体重測定は、屋内で測る場合と屋外で測る場合があります。2022年6月の体重は、ダイクが5.1kg、クリが6.65kgでした。月に1回行っており、体重の変化に応じてごはんの量を調整するなど、日々の健康管理に役立っています。

コスタリカで今起きていること

ナマケモノが暮らすコスタリカでは、さまざまな問題が起こっています。遠い国の話ですが、それは決して、私たちひとりひとりの暮らしと全く無縁のもの、というわけではありません。どのような問題があるのかわかることはとても大切なことです。そして、ナマケモノの将来を一緒に考えるきっかけになれば、とても嬉しいです。

生息地の減少

ナマケモノは、木から木へと移動をする動物です。森林伐採により、生息地が減少したり、分断されたりすることで、ナマケモノは森林の間を移動することができなくなってしまいます。生息地の減少はその他の問題にも大きく影響しています。



個体数の減少

ナマケモノの個体数は、生息地の減少や都市化によって、減少しています。森林が分断されたことで、ナマケモノは移動のために地面に降りる頻度が高くなりました。その結果、犬に襲われたり、車に轢かれたり、密猟されたりしやすくなっています。



寄生虫の問題

寄生虫とは、宿主に寄生し、宿主から栄養を摂取して利益を得る生物のことであり、共生生物とは異なるものです。生息地の減少や都市化による環境の変化は、ナマケモノに寄生虫の問題をもたらしています。ちなみに、ナマケモノの寄生虫に関する研究は、現時点ではほとんどされていません。



都市化

ナマケモノの生息地を私たち人間が突然開発したとしても、ナマケモノはその行動を変えることができません。都市化により、熱帯雨林が破壊され、道路や果樹園が作られ、電線が引かれます。その結果、ナマケモノは生活の場を失ってしまうのです。

遺伝的多様性の減少

遺伝的多様性は、動物種が環境に適応し、存続していく上で、最も重要なものです。個体数の減少により、遺伝学的に関係のある個体間での繁殖（近親交配）の可能性が高まります。その結果、指の欠損や、あごや足の形の異常などが起こります。

ペット化

ナマケモノはペットには向きません。ペットとして販売されているナマケモノの両親は野生から連れてこられた可能性が高く、またその過程で命を落とすことも少なくありません。ナマケモノをペットにするのは絶対にやめましょう。ナマケモノは家ではなく、森に生きる動物です。

1

暑い季節限定のイベントに参加をしましょう



6月から10月くらいまでの間、土日祝日の14時から（気温により）、「ナマケモノを飼育しないよ！ ナマケモノ」を行っています。



飼育員がナマケモノに関する様々なお話をします。
ナマケモノってどんな動物？
どんなところに暮らしているの？

大牟田市動物園

イベントの詳細については、ウェブサイトでご紹介しています。YouTubeの動画も是非ご覧ください。

動物園はさまざまなことへの扉であり、架け橋です。当園のイベントや動画で、ナマケモノのことをもっと知って頂けたら嬉しいです。

2

大学のみなさんと、ナマケモノについて研究しています



ナマケモノという動物について理解を深めるため、専門家を招いたライブ配信も実施しました。アーカイブは現在もご覧頂けます。



毎年10月20日は国際ナマケモノの日。当園ではこの日に近い週末に、スペシャルイベントを毎年行っています。是非ご参加ください。

ナマケモノについては、まだまだ分からないことがたくさんあります。ナマケモノの腸内に共生している細菌について、大学の方々と共同で研究を進めています。

3

SloCo（スロコ）と正式にパートナーシップを結んでいます



企画広報担当
とみさわかなこ
富澤 奏子

コスタリカを拠点として、ナマケモノの研究、教育普及を行っている SloCo から、生息地の生の情報を頂き、当園での飼育、発信に役立てています。



大牟田市動物園に
できること
みなさんにできること



ナマケモノを守りたい！

大牟田市動物園、SloCo と協力をする

※大牟田市動物園は、SloCoのオフィシャルパートナーです。
※このワークブックに記載されている写真の多くはSloCoからご提供を頂きました。

日本のみなさん、こんにちは！
私たちはコスタリカで
ナマケモノの保全研究、教育普及を行っています。
是非「スロコ」と呼んでください。
私はスロコの代表をしているレベッカです。
どうぞよろしくお願い致します。
ナマケモノが住んでいるのは、
中南米の熱帯雨林ですが、
世界中のどこからでも、もちろん日本からも、
野生のナマケモノを支援することが可能です。
大牟田市動物園と一緒に取り組む
私たちのプロジェクトをご紹介します。

研究

保全計画構築には、ナマケモノの生態を正確に知ることが欠かせません。そのため、ナマケモノの生態に関する研究への資金提供や論文の執筆を行っています。



都市部における調査

生息地が破壊されたり、熱帯雨林が開発されたりすることによるナマケモノの行動への影響を、長期的に調査しています。



お庭を連結

地域住民の方々にご協力を頂き、それぞれの庭の木々が、お隣の庭の木々と繋がっていくことで、ナマケモノが移動できるようになっています。



横断橋設置

橋を設置することで生息地のつながりを回復させ、ナマケモノや他の樹上性動物が、私たち人間と共有している場所を安全に移動できるようにすることを目的としています。



電線を埋め込む

ナマケモノの感電死が、後を絶ちません。新たな電線は地中に設置すると共に、既存の電線を地中に埋め込むための資金調達を行っています。



友好ネットワーク

コスタリカにおいて信頼できる観光事業を推進している地域のみなさんに、生物多様性の保全に貢献してもらえようネットワークを構築しています。



適切な観光

ナマケモノは観光客との写真撮影に利用されやすい動物です。観光客の多い地域に常設の看板を設置することで、適切な「ナマケモノ観光」を推進しています。



犬を助ける

ナマケモノの2番目に多い死因は犬によるものです。でも、犬が悪いわけではありません。犬を助けることは、ナマケモノを守ることに繋がります。



ナマケモノ学校

ナマケモノについて理解を深め、子どもたちが環境に配慮するよう働きかけています。ワークブックは日本語版もあります。是非ご利用ください。



野生復帰

さまざまな理由から保護をされたナマケモノのケアとリハビリを行い、保護された場所へと戻した後、長期的なモニタリングを実施しています。



ナマケモノの
保全活動をする
必要がない
社会を目指して
頑張ります！



大牟田市動物園 園長
しいはらしゅんいち
椎原 春一

ナマケモノ保全財団 SloCo

SloCo
ウェブサイト



ナマケモノ保全財団 (SloCo) は、野生下のナマケモノを救うことを目的として、ナマケモノ研究者のレベッカ・クリフ博士によって2016年に設立されました。保護区やレスキューセンターではありません。また、一般には公開されていません。SloCoは、野生下のナマケモノの保全と研究を専門に行う非営利団体です。英国で慈善法人として登録されています(登録慈善団体番号 1170992)。